

科目名 法学
Title Japanese Law
科目区分 基幹教養

教授 鈴木 陽子 (スズキ ヨウコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

一般教養としての「法学」の知識の習得と、法的なものの考え方を身につけることを目標とする。地域政策を学ぶためにも、また日常生活においても法学の知識は必要不可欠なものである。より専門的な他の法学系科目を学ぶための基礎となるよう、現実には発生する様々な問題を取りあげながら講義を進め、そこに含まれる「法学」的要素を抽出し、それらの背景を学んでいくことにより、法的な考え方や基礎知識を身につけるものとする。

達成目標

1. 一般教養としての法について基礎的な知識を習得できる。
2. 法的なものの考えを身につけ、それに沿って自分の見解を述べることができる。

スケジュール

- 第1回 行動規範としての法
- 第2回 法と道徳
- 第3回 法と倫理
- 第4回 法の存在形式
- 第5回 法の体系
- 第6回 法の解釈
- 第7回 学理解釈の技術と実際
- 第8回 法の解釈の技術
- 第9回 紛争解決と裁判制度
- 第10回 国籍をめぐる法的問題
- 第11回 外国人の人権
- 第12回 国民の司法への参加
- 第13回 残虐な刑罰と死刑制度
- 第14回 表現の自由と憎悪表現
- 第15回 海外旅行の自由

教科書・参考文献

教科書 『公法基礎入門(改訂増補第2版)』名雪健二編 八千代出版 ISBN 9784842916583

参考書 六法等を購入する必要はないが、e六法、And六法等のアプリをスマートフォンやタブレットにインストールしておくこと。

授業外での学習

関連するニュースをチェックし、事前に教科書を読んでおくこと。

評価方法

期末試験(80%)、リアクションペーパーなどの授業内の提出物(20%)

履修上の注意

予習も含め、授業内においても積極的に授業に参加してください。

科目名 法学
Title Japanese Law
科目区分 基幹教養

教授 担当教員
新田 浩司 (ニッタ ヒロシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

この授業では国民として、住民として生活する上で必要な法というものの考え方、及び国家の根本法である憲法について、現実が発生する様々な問題にも言及しつつ講義を進める。初めて法学を学ぶ者も法的思考にはどのような特殊性があるのかを理解し、法学の基本概念、現代法の仕組みや基本原則などの基本的な知識について学ぶことにより、専門科目での各法学科目を学ぶ際の基礎を作るものとする。

達成目標

一般教養としての「法学」の知識の習得と、法的なものの考え方や法学の学び方についての素養を身につけることを目標とする。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法と法学
- 第3回 法と国家
- 第4回 法と他の社会規範との関係
- 第5回 法の目的
- 第6回 法の構造
- 第7回 法の淵源
- 第8回 法の分類
- 第9回 法の解釈
- 第10回 法の適用 - 法が適用される事実、法を適用する機関 -
- 第11回 法の効力
- 第12回 権利と義務
- 第13回 憲法とは何か
- 第14回 日本国憲法の概要
- 第15回 総括 (まとめ)

教科書・参考文献

教科書 現在作成中の教科書を使用予定なので、決まり次第指示する。

参考書 六法を持参することが望ましい (スマートフォン等のアプリでも可)。

授業外での学習

教科書を熟読すること。また、新聞やTV等から法律に関連する情報を積極的に収集し何が問題なのかを自分なりに分析してみる。分からないことがあれば、積極的に質問すること。

評価方法

学期末試験 : 80%、小テスト : 20%

履修上の注意

授業中の私語は厳禁です。

科目名 政治学
Title Political Science
科目区分 基幹教養

担当教員
非常勤講師 丹羽 文生 (ニワ フミオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

毎週、地元ラジオの情報番組にコメンテーターとして出演し一般向けにニュース解説を行っている立場から、複雑で難解な「政治のいろは」を分かり易く伝えることをモットーとする。
普段は余り意識していないかもしれないが、私たちの日常生活は、好むと好まざるとに関わらず政治とは切っても切り離せない。授業を通じて、責任ある有権者、この国の主役としての意識喚起を図ることを目的とする。

達成目標

「政治というものは、国民を映し出す鏡」(サムエル・スマイルズ)と言われる。政治に関する基本的理解を深めることで、主権者としての自覚が持てるようになることを達成目標とする。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション(授業の進め方、受講に際しての注意事項、成績評価に関する説明)
- 第2回 政治とは何か
- 第3回 デモクラシー
- 第4回 選挙と政治参加
- 第5回 権力と支配・権威とリーダーシップ
- 第6回 政治思想とイデオロギー
- 第7回 議会制度
- 第8回 日本の国会
- 第9回 日本の内閣
- 第10回 政党と政党システム
- 第11回 日本の政党
- 第12回 議員立法と内閣法
- 第13回 世論とマス・メディア
- 第14回 国家とは何か
- 第15回 国際政治・外交

教科書・参考文献

- 教科書 増田正、丹羽文生、半田英俊、島村直幸、吉田龍太郎、加藤秀治郎『政治学入門』(一藝社、2020年)。これとは別に授業の度にレジユメを配付する。
- 参考書 授業中に適宜指示する。

授業外での学習

予習は、各回のテーマに合わせて提示された課題図書を事前に読み、自分なりの考えを持った上で授業に臨む。復習では、授業で配付されたレジユメをベースにポイントを整理しておく。

評価方法

期末試験が50%程度、途中で提出を求めるミニレポートが30%程度、受講状況が20%程度という割合で総合的に評価する。

履修上の注意

理由なき遅刻、途中退席は厳禁。私語、携帯電話・スマートフォンの使用といった授業の妨害行為は絶対に認めない。

科目名 政治学
Title Political Science
科目区分 基幹教養

教授 増田 正 (マスダ タダシ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

・政治学の基礎的な概念と理論について、具体的な事例を挙げながらわかりやすく解説する。講義の範囲は、プラトン、アリストテレス以来の伝統的・古典的政治学ではなく、主として20世紀前半に成立した現代政治学とその展開である。今日、統治システムとしては、代議制民主主義が支配的であるが、情報技術の革新が驚くべき速度で進展しており、政府の電子化は統治機構を変容させつつある。たとえば、「ジャスミン革命」は、SNS等のコミュニケーションメディアのもつ潜在力を我々に示したが、それにはフェイクニュースの蔓延にみられるように負の側面もある。また、熟議型民主主義を実現するため、討論型世論調査(DP)などの新手法も登場している。今後は政府と有権者の間の双方向性が強まることが予想される。本講義では、20世紀以降の政治学の展開を概観したうえで、最先端の政治学を展望することになる。

達成目標

・社会科学の一分野である政治学の学問的な位置について理解し、政治学的アプローチの基礎を身につけられるようにする。本講義では、政治現象を後付けで解説する政治評論や、持論の展開に終始するイデオロギー的な論説を避けながら、教養的な政治学を身につけることによって、バランスのとれた政治感覚を養成したい。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス 講義のアウトライン及び履修上の注意について
- 第2回 政治学の成立と展開 政治科学としての現代政治学
- 第3回 直接民主主義、間接民主主義、SNSと民主主義 twitterの可能性、東浩紀の一般意志2.0
- 第4回 多数決型の政治と合意型の政治 ウェストミンスター・システムの規範性と逸脱
- 第5回 熟議型民主主義の成立可能性 フィシユキンの討論型世論調査とサンスティーンの集団極化
- 第6回 政党システム論の形成と展開 デュヴェルジェの分類とサルターリの類型
- 第7回 包括政党とカルテル政党 キルヒハイマーからカツとメイヤーまで
- 第8回 脱物質主義と静かなる革命 イングルハートの脱物質主義仮説をめぐって
- 第9回 日本の政治を考える 90年代の政治改革から自民党一党優位制への回帰まで
- 第10回 大統領制・議院内閣制・半大統領制 アメリカ、イギリス、日本、フランスの政治体制
- 第11回 議会の類型 変換型議会とアリーナ型議会
- 第12回 政治過程と政策過程 政策過程の5つのステージ
- 第13回 圧力団体と住民運動 圧力政治と日本の圧力団体
- 第14回 投票行動の理論 争点投票モデル、業績投票モデル
- 第15回 総括授業(講義のまとめ)

教科書・参考文献

教科書 増田正・丹羽文生ほか『政治学入門』一藝社(2020)

参考書 堀江湛編著『政治学と行政学の基礎知識』(第3版)一藝社(2014)

授業外での学習

シラバスに対応した講義項目に関する事前学習(予習)を行うとともに、講義後にもテキストで内容を復習しておくことが望まれる。

評価方法

学期末試験:70%、毎回のコメントシート30%

履修上の注意

テキストを必ず毎回持参すること。

科目名 行政学
Title Public Administration
科目区分 基幹教養

教授 佐藤 徹 (サトウ トオル)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

・ 行政の果たすべき役割が増大する今日において、まずはその実態面として、国及び地方自治体の組織と構造を把握する。次に、行政管理の理論と実態を理解した上で、政策過程について学習する。また、かつて英国等の行政改革から培われたNPMがわが国にどのような影響を与えたのか、その後の展開はどうか等について検討する。また地方自治の観点から参加と協働、ガバナンスに焦点を当て、その歴史・理念・手法について考究する。そして、行政学がこれまでどのように「行政」を捉え、どのような理論を構築してきたかについて概観する。

・ 自治体での勤務経験、国及び自治体の委員やアドバイザー等を通じて得られた知見なども踏まえ講義する。

・ 将来、政府や地方自治体をはじめ公共部門で活躍したいと考えている学生にとっては、非常に有用な内容となるであろう。

達成目標

人口減少、少子高齢化、価値観の多様化、財政危機の深刻化等により、国及び地方自治体は国民・住民に対する説明責任を果たしながら、サービスの効率化や成果重視の行政運営が求められている。こうした中、行政はいかにして国民・住民のニーズに対応した政策を立案・実施し、問題解決を図ればよいのだろうか。こうした問題意識に立脚し、学生が「行政」の実態を構造的に把握でき、学術的に考察できるようになることをめざす。

スケジュール

回数	内容	講義概要、スケジュール、成績評価、注意事項等
第1回	イントロダクション	行政学における「行政」の定義
第2回	「行政」とは何か	議院内閣制、内閣、国会
第3回	中央政府の組織と構造	二元代表制、首長、地方議会
第4回	地方政府の組織と構造	行政計画、総合計画、分野別計画の策定と管理
第5回	行政管理と計画行政	予算編成の手法と過程、増分主義、枠配分予算
第6回	行政管理と予算編成	問題発見とアジェンダ・セッティング
第7回	政策過程の理論と実態(1)	政策決定のモデル
第8回	政策過程の理論と実態(2)	政策の評価
第9回	政策過程の理論と実態(3)	サッチャー以降の諸改革とNPM、日本の行政改革への影響、ポストNPM
第10回	行政改革とNPM	市民参加の歴史と変遷
第11回	自治と参加(1)	政策過程における市民参加とその方法
第12回	自治と参加(2)	協働、ガバナンス、地域経営
第13回	自治と参加(3)	ドイツ官房学、政治・行政融合論、官僚制理論
第14回	行政学の理論	
第15回	本講義の全体総括	

教科書・参考文献

教科書 講義のなかで指示、紹介する。

参考書 必要に応じて講義のなかで指示する。

授業外での学習

次回の授業範囲について、配布資料を研究室のホームページからダウンロードし、ひと通り目を通しておくこと。また、新聞やニュースなどに関心を持って、積極的に行政や政策に関する情報の収集に努めること。授業後は、関連文献などを適宜参照し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

定期試験又はレポート(100%)。ただし、授業における積極的な発言は別途加点する。

履修上の注意

・ 受講意志のある者は第1回目の講義(イントロダクション)に必ず出席すること。
・ 講義で使用する資料は原則として佐藤徹研究室ホームページに掲載する。各自ダウンロード・印刷して講義にのぞむこと。なおデータを聞くためには講義中に知らせるパスワードが必要である。

科目名 行政学
Title Public Administration
科目区分 基幹教養

担当教員
非常勤講師 泉澤 佐江子 (イズミサワ サエコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

我々の日常生活は実に様々な行政サービスによって支えられています。しかし、多様化した課題が山積し、変化のスピードが早まる中、すべての課題を行政だけで対応していくことは不可能でしょう。生活を支える基盤である行政がより効果的に機能するためには、我々一人ひとりが行政の成り立ちや仕組み、特性を知った上で、市民として主体的に関与していくことが必要です。本講義では、行政の活動と日々の生活との関わりを意識しながら日本の行政制度や構造を学ぶことで、学生が「行政とは何か」を多面的に捉え、その役割の多様さ、深さ、大きさを感じてもらうことを目的とします。

達成目標

行政の仕組みや歴史等の概要を学び、行政の基本を総合的に理解することで、学生がめまぐるしく変化する社会環境に対して、今後の行政はどうあるべきか、自分は市民としてどう関わるべきかについて、自分なりの考えを展開できるようになることを目指します。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション：講義概要、スケジュール、成績について
- 第2回 行政とは何か：歴史の変遷、行政の構造、行政活動
- 第3回 組織の構造(国)：議院内閣制、内閣、国会
- 第4回 組織の構造(地方)：二元代表制、首長、地方議会
- 第5回 組織と管理(1)：計画行政(行政計画、総合計画、分野別計画)
- 第6回 組織と管理(2)：予算編成、財政
- 第7回 組織と管理(3)：官僚組織、公務員制度
- 第8回 政策過程(1)：政策サイクルの概要
- 第9回 政策過程(2)：政策決定と評価
- 第10回 地方自治制度：国地方関係(戦前戦後、高度成長期、地方分権改革)
- 第11回 行政改革とガバナンスの変化：官民関係、行政の守備範囲の変容
- 第12回 市民と行政(1)：市民参加の歴史の変遷
- 第13回 市民と行政(2)：協働、地域共生社会
- 第14回 行政学の理論
- 第15回 講義全体の総括

教科書・参考文献

教科書 必要に応じて講義の中で紹介する。

参考書 必要に応じて講義の中で紹介する。

授業外での学習

日常的に政治行政に関するニュースに触れるよう努めること。授業後は、関連文献などを適宜参照し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

(1)期末試験またはレポート70%、(2)コメントペーパー等による議論への参加・発表等30%

履修上の注意

授業での疑問点等をコメントペーパーにより聴取し、次回以降の授業で応答していくという形式で行います。理論だけに留まることなく、社会実態を踏まえた講義です。

科目名 経済学
Title Economics
科目区分 基幹教養

担当教員
非常勤講師 大石 隆介 (オオイシ リュウスケ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

経済学とは社会において経済主体（家計・企業・政府等）がどのように相互依存・意思決定を行っているか、その結果として経済がどのように動いていくかを学ぶための学問である。ここで学ぶ諸原理は我々の日常生活で起こる事象はもとより、地域政策とも密接な関係がある。そのため経済学の学修は地域政策学部の学生にとっても有意義なものとなる。本科目では、ミクロ経済学・マクロ経済学それぞれの基本的な考え方について理解を深めることを目的とする。

達成目標

ミクロ経済学（需要と供給の概念を用いた市場分析等）・マクロ経済学（国内総生産（GDP）等の代表的なマクロ経済指標）について理解を深めることを目的とする。

スケジュール

第1回	ガイダンス	
第2回	経済学の十大原理	マンキュー入門経済学 第1章
第3回	経済学者らしく考える1	マンキュー入門経済学 第2章
第4回	経済学者らしく考える2	マンキュー入門経済学 第2章 補論
第5回	相互依存と交易（貿易）からの利益	マンキュー入門経済学 第3章
第6回	市場における需要と供給の作用	マンキュー入門経済学 第4章
第7回	需要、供給、および政府の政策	マンキュー入門経済学 第5章
第8回	消費者、生産者、市場の効率性	マンキュー入門経済学 第6章
第9回	外部性	マンキュー入門経済学 第7章
第10回	国民所得の測定	マンキュー入門経済学 第8章
第11回	生計費の測定	マンキュー入門経済学 第9章
第12回	生産と成長	マンキュー入門経済学 第10章
第13回	貯蓄、投資と金融システム	マンキュー入門経済学 第11章
第14回	総需要と総供給	マンキュー入門経済学 第12章
第15回	まとめ	

教科書・参考文献

教科書 マンキュー入門経済学（第3版） N グレゴリー マンキュー 訳：足立 英之 石川 城太
小川 英治 地主 敏樹 中川 宏之 柳川 隆 東洋経済新報社
参考書 経済学入門 編：米本 清 宇都宮 仁 みらい 2018年

授業外での学習

シラバスを確認し、毎授業前に該当する章の内容を予習すること。
授業終了後には授業で学習した内容を踏まえ、再度該当する章を読んで復習すること。
毎回の授業にて、宿題を課すので取り組むこと（詳細は授業にて教員から指示する）。

評価方法

コースワーク（宿題）：総合評価の30%
学期末試験：総合評価の70%

履修上の注意

毎回の授業に休まず出席すること。これに加え、授業外学習（宿題に加え、授業内容の復習）が非常に重要となる。授業だけでなく、授業外の時間にしっかりと学修すること。

科目名 経済学
Title Economics
科目区分 基幹教養

担当教員
准教授 米本 清 (ヨネモト キヨシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

現代社会は経済的な要因のみで成立しているわけではないが、多くの物事は経済的な側面を考慮せずに語ることができなくなっている。
本科目では経済学の諸理論を紹介し、それに基づいて実際の経済や社会・政治を考察する。
経済学の諸理論は一般的に抽象性が高いが、初歩的な知識から昨今の新しい理論まで、現実の経済への応用例も含めて幅広く紹介する予定である。この分野を特徴づける数多くの学派、学説に触れることで、現実の経済をさまざまな角度から眺め、最終的に自分の頭で理解し、考察するための素養を培う。随時、具体的なトピック、特に経済問題とからめて理解を深める。

達成目標

- ・ ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方を知る。
- ・ 日本経済や世界経済の実態に関する大学レベルのトピックに触れる。
- ・ 経済学の分析対象やその可能性、限界について理解する。
- ・ 学習した範囲で、現実の経済情勢を考察する。

スケジュール

第1回 経済学の基本 経済学の考え方
第2回 経済学の歴史 経済学の各分野
第3回 需要・供給と市場 典型的な需要・供給曲線と市場均衡
第4回 消費者の行動 需要曲線・消費者余剰・弾力性
第5回 企業の行動 利潤最大化と費用最小化・長期と短期
第6回 市場均衡と経済厚生 与件の変化・余剰分析
第7回 独占・ゲーム・情報 独占・寡占の理論
第8回 市場の失敗 外部性・公共財
第9回 日本経済と世界経済のこれまで 日本・世界経済の概要
第10回 GDP 付加価値・三面等価
第11回 有効需要 乗数メカニズム
第12回 貨幣と金融 信用乗数 貨幣需要と供給 金融システム
第13回 経済政策 財政政策・金融政策・社会保障
第14回 国際経済 貿易の利益・為替・国際金融
第15回 その他のトピック・まとめ

教科書・参考文献

教科書 米本清・宇都宮仁(編)『経済学入門』(出版社)みらい

参考書 伊藤元重『入門経済学』第4版 (出版社)日本評論社

授業外での学習

毎回、教科書の該当する章を予習するとともに章末の「練習問題」を解き、自ら考えてから出席すること。

評価方法

途中2回、小テストを実施する。小テスト(30%)、定期試験(70%)により総合的に評価する。

履修上の注意

授業には積極的に参加し、小テストでは自らの頭で考えた解答を示して下さい。
小テストは、自ら資料を参照したり、周囲の人と協力して解答する作業を含む場合がある。

科目名 経営学
Title Business Management
科目区分 基幹教養

准教授 若林 隆久 (ワカバヤシ タカヒサ)
担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

経営に関する様々な側面について、基礎的な知識、概念、専門用語、考え方を理解し身につけることが目的です。企業は、現代の社会において大きな役割を果たしており、様々な形で私たちの生活に関わっています。また、多くの人が企業あるいはその他の組織において働くこととなり、人生の少なくない時間を費やすことになり、経営学を学び現実に適用することで、働くことをはじめとした様々な活動を円滑かつ有効に行えるようになることを目指します。そのため、できる限り身近な事例や実際の企業の事例を取り上げながら講義を行います。

達成目標

本講義の到達目標は以下の2点です。

1. 経営学の基礎的な知識、概念、専門用語、考え方を記述・説明できる。
2. それらを適用して、現実の企業や組織に対して考えを述べられる。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 キャリア、人的資源管理
- 第3回 モチベーション
- 第4回 リーダーシップ
- 第5回 組織デザイン
- 第6回 企業とは何か
- 第7回 企業の目的・活動、経営資源、企業の仕組み
- 第8回 資金調達、財務諸表、会社制度
- 第9回 企業グループ、財閥
- 第10回 経営戦略(1): 全社戦略
- 第11回 経営戦略(2): 事業戦略
- 第12回 マーケティング
- 第13回 消費者行動
- 第14回 イノベーション
- 第15回 講義のまとめ・振り返り

教科書・参考文献

教科書 教科書は定めず、毎回講義資料を配布します。

参考書 講義の進行にあわせて、適宜紹介します。

授業外での学習

各回や各ブロックの内容を習得できているかMicrosoft Formsを用いた確認テストなどを実施します。指定された期限までに合格してください。また、学んだ内容の活用を目指すので、関連する事柄について、新聞、ニュース、本・論文、Web上の記事、企業のホームページなどで情報収集し自分なりに考える習慣をつけてください。

評価方法

各回の確認テスト(約30~40%)、各ブロックの確認テスト(約30~40%)、課題(約30~40%)で評価します。

履修上の注意

詳細については、履修登録期間が近づいたら教員ウェブページ(https://www.wakabayashi-network.com/entry/keieigaku_2021-syllabus)や教員のTwitter(https://twitter.com/wakabayashi_net)で確認してください。必要に応じて、適宜授業に関する情報発信を行う予定です。

科目名 経営学
Title Business Management
科目区分 基幹教養

担当教員
教授 坪井 明彦 (ツポイ アキヒコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

今日の経済社会において企業の果たす役割は大きく、その存在は私たちの生活に大きな影響を与えています。経営学はこのような企業行動の解明を研究対象にしています。この講義では、企業がどのように経営活動を行っているのかについて、事例を用いて解説します。講義の目的は、こうした事例と関連付けて、経営学の基本的な用語や概念を理解することにあります。

また、企業経営の全体像-社会全体の中での企業の役割、企業を動かす仕組み、企業と企業の関係、製造過程の管理、社員の行動、人材育成の仕組み、製品販売の方法-を理解し、消費者としての視点ではなく、働く側あるいは経営する側の立場から企業を評価する目を養うことを目的とします。

達成目標

この講義の到達目標は次の二つです。

1. 企業の事例と関連付けて、経営学の基本的な用語や概念を説明できる
2. 経営学の基本的な用語や概念を正しく理解し、自分が所属する組織の運営に活用できる

スケジュール

- 第1回 ガイダンス
講義概要、スケジュール、評価方法の説明
- 第2回 会社の経営とはどんなことか-企業経営入門、会社はどのようにして社会に役立っているのか-企業
企業、経営、管理、コーピング・コンサーン、株式会社、NPO、私的セクター、社会的責任
- 第3回 会社は誰が動かしているのか-コーポレート・ガバナンス
所有と経営の分離、株主、執行役員、コーポレート・ガバナンス
- 第4回 会社はどのような方針で動いているのか-経営理念と戦略
経営理念、企業ドメイン、経営戦略、PPM
- 第5回 会社はどんな仕組みで動いているのか-組織形態
組織形態、職能別組織、事業部制組織、マトリックス組織、カンパニー制
- 第6回 会社は他の会社とどのように協力しているのか-組織間関係
組織間関係、系列、企業集団、企業グループ
- 第7回 会社はどのようにしてモノを造るのか-生産管理
テイラー・システム、規模の経済性、QCサークル
- 第8回 社員は仕事をどのように分担しているのか-組織構造と職務設計
組織構造、分業、学習効果、職務設計
- 第9回 社員はなぜ働くのか-モチベーションとリーダーシップ
職務満足、キャリア、モチベーション、リーダーシップ
- 第10回 社員はなぜ組織にとどまろうとするのか-雇用システム
職務、終身雇用、定年制
- 第11回 社員はどのような報酬を求めるのか-報酬制度
内的報酬、外的報酬、年功賃金、成果主義、目標管理
- 第12回 社員はどのようにして育てられるのか-人材育成制度
OJT、OFF-JT、キャリア・デザイン
- 第13回 会社はどのようにしてモノを売るのか-マーケティング
マーケティング、STP戦略、差別化、マーケティング・ミックス
- 第14回 会社は海外でどのように経営しているのか-国際経営
海外直接投資、プロダクト・サイクル論
- 第15回 会社の利益はどのようにして測定するのか-会計制度
損益計算書、貸借対照表

教科書・参考文献

教科書 上林憲雄ほか 『経験から学ぶ経営学入門・第2版』 有斐閣 2018年

参考書 受講生の興味や理解度に合わせて適宜紹介します。

授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について、指定した教科書と前回の授業で配布した資料をよく読み、予習しておくほか、ビジネス雑誌などの関連記事から積極的に情報収集すること。また、授業後は必ず提示した資料に目を通し学習内容の定着を図ること。

評価方法

期末試験と受講状況(平常点)を70%と30%で配分し、評価します。

履修上の注意

講義は、基本的にテキストに沿った内容で進めます。なお、遅刻は、平常点から減点します。遅刻しないようにしてください。出席に関する不正行為が発覚した場合、平常点は0点とします。

科目名 社会学
Title Sociology
科目区分 基幹教養

教授 佐藤 彰彦 (サトウ アキヒコ)

担当教員

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
前期

目的

本講義では、社会学の基礎的な知識、概念、理論や考え方を学び、社会的な思考を身につけることを目的とする。したがって、講義内容を理解・習得する過程において、現代社会で生起しているさまざまな事象を、社会的な視点から捉え、自ら仮説を立て、発展的に理解できる思考を身につけることを期待する。また、講義のなかでは、政策系シンクタンクでの勤務経験を活かして、現代社会や政策現場における今日的課題等について解説をおこない、「学術と実学の接合」という視点から考える力を養う。

達成目標

本講義では、主として講義で扱う事項を中心に、受講生には主に次のことを理解・習得し、それらを発展的に適用できることを期待(=目標とする)。①家族、都市と地域、国家と社会を取り巻く社会経済状況の変容過程とそれらの現代的特徴について理解し、説明できる。②少子化・高齢化・人口減少など縮小社会の特徴についての理解し、説明できる。③現代の社会問題や生活問題に関する理解を深め、考えることができる。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション—社会学という学問と視座
- 第2回 家族の形態/機能とその変容
- 第3回 世代/家族とライフコース
- 第4回 教育と職業
- 第5回 社会階層と格差
- 第6回 国家と社会—制度としての権力
- 第7回 国家とグローバル化/トランスナショナル—社会変容/地球規模の課題
- 第8回 社会集団と組織/ネットワーク化
- 第9回 メディアとコミュニケーション
- 第10回 少子化・高齢化・人口減少の進展と縮小社会
- 第11回 産業社会の変化/組織の変容
- 第12回 都市化・過疎化の進行と変容する地域社会
- 第13回 貧困、社会的排除、社会的孤立
- 第14回 犯罪・逸脱・社会問題
- 第15回 社会問題と社会運動/市民活動

教科書・参考文献

教科書 基本は授業で配布するレジメ。社会学初学者向けに、長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬士『社会学』(有斐閣、2007)

参考書 参考文献については、講義のなかで適宜紹介する。

授業外での学習

講義内容の理解を深めるため、毎回の講義に関連する教科書・参考書の該当箇所を予復習することが望ましい。

評価方法

①講義への参加態度・貢献度+コメントシート【20点】、②中間レポート【30点】、③期末試験(持込不可)【50点】。

履修上の注意

社会的な思考を習得し、現代社会を「良い意味で批判的にとらえる」習慣を身につけることは、実社会で大いに役立つスキルとなる。したがって、その習得のためにも、授業中の発言やコメントシートへの意見記入など毎回の講義で扱う各テーマには各自、積極的な姿勢で取り組むことを期待する。

科目名 社会学
Title Sociology
科目区分 基幹教養

担当教員
准教授 宇田 和子 (ウダ カズコ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

社会学は高校までに学んできた「社会科」とは異なるものである。法学や経済学と違い、名前を聞いても中身がイメージしにくい上、「社会学者の数だけ社会学がある」という定義たりえない定義まで存在する。社会学とは一体なんなのか。社会科学とはどう違うのか。なぜ社会学という学問がこの世に生まれ、大学の科目になるに至ったのか。本講義では、社会学の基礎概念、対象、方法、テーマ、理論について具体的な事例を交えながら解説し、社会学という学問の謎を解く。

達成目標

社会学的思考を身につける。
社会学の基礎概念と理論について説明できる。
社会学という学問がどのようなものかイメージできる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス—受講上の注意、講義の概要
- 第2回 社会学の誕生
- 第3回 社会学の対象
- 第4回 社会学的想像力の実践
- 第5回 社会学の根本問題
- 第6回 秩序の生成
- 第7回 行為規範からの逸脱
- 第8回 法規範からの逸脱
- 第9回 犯罪と動機の話(1)
- 第10回 犯罪と動機の話(2)
- 第11回 権力と支配
- 第12回 官僚制
- 第13回 意図せざる帰結(1)
- 第14回 意図せざる帰結(2)
- 第15回 全体のまとめ

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない

参考書 ①筒井淳也・前田泰樹, 2017, 『社会学入門』有斐閣。②井上俊・船津衛編, 2005, 『自己と他者の社会学』有斐閣。

授業外での学習

講義内で紹介する文献を積極的に読むことを推奨する。

評価方法

試験100%。ただし試験の点数だけでは不合格となる場合、平常点(講義内レポートなど)を15%まで加味する。この場合は最高で「可」の評価しかつかない。なお受講者が少ない場合、平常点の比率を高めることがある。

履修上の注意

科目名 地理学
Title Geography
科目区分 基幹教養

担当教員
教授 佐藤 英人 (サトウ ヒデト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

地理学は哲学や天文学などと並び、世界で最も古い学問の一つと言われている。自然環境と人々の営みとの関係を議論することが地理学の基であるが、そもそもなぜ、この広大な空間の中で人々はある特定の場所に集い、そこで社会や経済、文化的な活動をするのだろうか？こうした素朴な疑問に答えることが地理学の大きな役割だろう。地理学を学ぶためには、既存の統計や資料を読み解く分析力のみならず、自分の脚で現地に赴き、自分の目で事象を観察し、自分の口と耳で他者と対話して、現地から情報を汲み上げる洞察力（フィールドワーク）が不可欠である。そこで本講義では地理学の基礎的な研究方法を中心に解説していく。

達成目標

本講義の達成目標はつぎの5点である。1. 小中高の教科「地理」と大学で学ぶ「地理学」との違いがわかること。2. 空間的な概念が理解できること。3. 地理学を研究するための手段や方法が理解できること。4. 地図、空中写真、衛星画像、地域統計等のデータを適切に扱え、主題図を地理情報システムで描画できること。5. フィールドワークを企画・立案できること。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス-講義概要、スケジュール、評価方法など
- 第2回 大学で学ぶ地理学とは？-地理学を学ぶ意義と研究視角、分析手法等のアウトライン
- 第3回 地理学を発展させた先人達-地理学史
- 第4回 地理学の諸分野と地域概念-系統地理学と地誌学の違い、地域区分の設定方法
- 第5回 地図と空中写真、衛星画像の利用（1）-さまざまな地図とその利用方法
- 第6回 地図と空中写真、衛星画像の利用（2）-空中写真判読とリモートセンシング
- 第7回 統計の扱い方（1）-地理学で利用する基本統計
- 第8回 統計の扱い方（2）-統計の集計単位と分析方法
- 第9回 主題図の作成と地理情報システム（1）-地理情報システム（GIS）とは何か？
- 第10回 主題図の作成と地理情報システム（2）-GISによる主題図作成と空間分析
- 第11回 フィールドワーク（1）-フィールドワークの企画、立案
- 第12回 フィールドワーク（2）-聞き取り調査とアンケート調査の進め方
- 第13回 フィールドワーク（3）-都市調査の実例
- 第14回 地理学と地域政策学-地理学の応用と社会貢献
- 第15回 まとめ-本講義のまとめと復習

教科書・参考文献

教科書 特に定めないが、毎回授業の冒頭（5～10分程度）に参考となる文献やフリーウェア、サイト等を紹介する。

参考書 梶田真ほか編著『地域調査ことはじめ-あるく・みる・かく』、ナカニシヤ出版、2007
野間晴雄ほか編著『ジオ・バルNEO第2版-地理学・地域調査便利帖』、海青社、2017

授業外での学習

講義で利用するレジュメは、原則1週間前にネットで公開する。履修者は事前にレジュメを入手して予習することが望ましい。

評価方法

期末試験（70%）と小テスト・小レポート（30%）の結果等により評価する。

履修上の注意

本講義ではパワーポイントを使用する。当日使用する資料は、ウェブサイトからダウンロードできるので、適宜、利用して欲しい。なお、ダウンロードの方法などの詳細は、初回のガイダンスで説明する。

科目名 地理学
Title Geography
科目区分 基幹教養

担当教員
准教授 太田 慧 (オオタ ケイ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

地理学の基礎となる見方や考え方について、主に人文地理学のテーマを事例に理解することを本講義の目的とする。講義の前半では、地理学の発展についての歴史をたどり、人文地理学のさまざまな方法論についての理解を深める。次に、対象を農村と都市に分けて、それぞれの地域における諸課題について比較しながら紹介していく。講義の後半では、観光地理学や社会問題に関する地理学、GIS(地理情報システム)などの今日的な地理学のテーマについても扱う。

達成目標

人文地理学の古典的なモデルや概念に関する学習を通して地理学的見方や考え方についての理解を深める。さらに、現在の人文地理学の主要なテーマに触れ、地図や地理情報を読み解き、理解する能力を養うことを本講義の達成目標とする。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：地理的見方と考え方
- 第2回 近代地理学の成立：系統地理学、地誌学、地図学、地域研究
- 第3回 経済立地の理論：チューネンの農業立地論ウエーバーの工業立地論
- 第4回 農村地域の変容
- 第5回 都市の立地
- 第6回 都市システムと都市の空間構造
- 第7回 都市の見方と商店街
- 第8回 港湾の地理学
- 第9回 観光地理学の見方・考え方
- 第10回 交通と地理学
- 第11回 地域の地誌学的見方：温泉地の特性
- 第12回 地域の地誌学的見方：高原の暮らし
- 第13回 地図学：GIS(地理情報システム)の原理と応用
- 第14回 地図学：地図表現とその課題
- 第15回 まとめ：環境、空間、地域

教科書・参考文献

教科書 特に指定しない。適宜資料を配布する。

参考書 授業時にパワーポイントに示す。

授業外での学習

授業後にもノートや配布資料に目を通すこと。

評価方法

平常点60点(課題・リアクションペーパー)、期末試験40点。
欠席回数が高崎経済大学の基準回数を超えた場合、期末試験の受験資格がなくなるので要注意のこと。

履修上の注意

欠席回数が高崎経済大学の基準回数を超えた場合、不可となるので要注意のこと。

科目名 公共哲学
Title Public Philosophy
科目区分 基幹教養

担当教員
非常勤講師 福原 正人 (フクハラ マサト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

公共哲学は、「公共性とは何か」といった問いに対して回答を与える分野である。もしあなたが、孤島で気の知れた友人たちと自給自足の生活を営んでいるとしたら、ここでは、厳密な意味で、「こうきょうせい」といった言葉は存在しないだろう。というのも、友人はあなたの振舞いを大目に見てくれるし、あなたは友人の困窮に躊躇なく手をさしのべるからだ。しかし、あなたは一生すれ違うことさえもない「誰か」と営む社会に暮らしておき、あなたの自由が「誰か」の自由と衝突したり、「誰か」を平等なメンバーとして手をさしのべる場面に向き合わせるをえないようである。このとき、自由や平等に関するルールや新たなルールを決める手順をあらかじめ考えてみることは望ましいだろう。そこで本講義では、政治哲学・理論と呼ばれる観点から、こうしたルール(正義)やルールを決める手順(民主主義)を考えることで、最初の問いに対して回答を与えたい。

達成目標

本講義の達成目標は、上記の目的のために必要となる基本的な知識や抽象的な思考様式に親しみ自身でも運用できること。

スケジュール

- 第1回 インタロダクション：公共性と正義
- 第2回 功利主義(1)
- 第3回 功利主義(2)
- 第4回 リバタリアニズムの正義論
- 第5回 ロールズによるリベラリズムの正義論
- 第6回 ロールズ以降の正義論
- 第7回 ナショナリズム
- 第8回 フェミニズム
- 第9回 まとめ
- 第10回 民主主義
- 第11回 民主主義
- 第12回 グローバルな正義論
- 第13回 グローバルな民主主義
- 第14回 応用問題(1):正義と移民
- 第15回 応用問題(2):民主主義と科学技術

教科書・参考文献

教科書 講義用ノートを配布しますので必要ありません。

参考書 田村哲樹など『これからはじめる政治理論』(有斐閣ストウディア、2017年)、宇佐美誠など『正義論：ベーシックからフロンティアまで』(法律文化社、2019年)

授業外での学習

授業内容に関して自分なりに問題関心をもち、あれこれ考えることが大切です。

評価方法

基本的な評価は、論述テスト(70%)、リアクションペーパー(30%)ですが、任意のレポート課題を加算する場合があります。単位取得は、それほどハードルは高くないと思いますが、A/S評価はシビアにつけています。

履修上の注意

受講の際には哲学や政治学などに関する予備的な知識は不要ですが、耳触りのいい結論に飛びつかずに根気よく考えることが求められます。なお、応用問題のテーマは、受講者の希望に応じて、適宜変更します。また、遠隔講義が大学として継続される場合は、ZOOMによるリアルタイム講義とその講義動画のオンデマンド配信をもって対応する予定です。

科目名 公共哲学
Title Public Philosophy
科目区分 基幹教養

担当教員
教授 福間 聡 (フクマ サトシ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

「公共性とは何か」「どうすれば他者との間で合意に至ることができるのか」「公共的な生の指針となる思想とはどのようなものか」「我々の生命・身体に対してどのような権力が作用しているのか」「これからの労働や社会保障はどうあるべきか」「家族の中にも正義は必要か」「グローバルな貧困にどのように対処すべきか」「アフター・コロナの社会における我々の公共的生はどうあるべきか」といった諸問題を本講義では考察し、それを通じて公共哲学的な思考法を身につける。現代社会で課題となっている諸問題を参加者と共に問い直すことが、本講義の目的である。

達成目標

「公共性」にまつわる諸問題を考察することを通じて、我々にとって望ましい公共的な生とはどのようなものであるべきかについて自分の考えを持てるようになる。

スケジュール

- 第1回 導入 公共性とは何か
- 第2回 公共性についての哲学的思考 -公共的な諸問題へのアプローチ-
- 第3回 公共性についての哲学的思考 -公共的正当化- (小テスト)
- 第4回 公共的な生についての哲学・1 -ロールズ(平等主義的リベラリズム)-
- 第5回 公共的な生についての哲学・2 -サンデル(共和主義的コミュニタリアニズム)-
- 第6回 公共的な生についての哲学・3 -ハンナ・アーレント(複数性の哲学)- (小テスト)
- 第7回 生命・身体と公共性 -ミシェル・フーコー(生権力・生政治)-
- 第8回 労働と公共性・1 -労働の現在-
- 第9回 労働と公共性・2 -労働の行方- (小テスト)
- 第10回 社会保障と公共性・1 -ベーシック・インカムの可能性-
- 第11回 社会保障と公共性・2 -労働への権利とは何か-
- 第12回 親密圏と公共圏
- 第13回 国際社会における公共性 (小テスト)
- 第14回 アフター・コロナの公共哲学・1 -新型コロナにどう対応したのか-
- 第15回 アフター・コロナの公共哲学・2 -新型コロナにどう対応すべきか- (小テスト)

教科書・参考文献

教科書 特になし。適宜プリントを配布する。

参考書 山岡龍一・齋藤純一『公共哲学』(放送大学教育振興会2010,改訂版2017)、柘植尚則他『経済倫理のフロンティア』(ナカニシヤ出版2007)、福間聡『「格差の時代」の労働論』(現代書館2014)

授業外での学習

次回の授業範囲に関連する項目について、配布した資料をよく読み、予習しておくこと。また、授業後は必ずノートや配付資料に目を通し、学習内容の定着を図ること。

評価方法

期末試験の成績で評価する(100%)。

履修上の注意

基本的に、講義形式の授業だが、クラス・ディスカッションなど学生が発言をする機会をできる限り提供していきたい。授業中の私語や携帯電話、スマートフォン等の使用は絶対に禁止。

科目名 歴史学
Title History
科目区分 基幹教養

担当教員
非常勤講師 川上 真理 (カワカミ マリ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
1

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
前期

目的

この講義では、明治時代以前の「地域」の描かれ方を理解した上で、それ以後の日本の歴史学における郷土史・地方史・地域史研究の形成過程を理解し、地域史研究が取り組んでる現代の課題について考える。

達成目標

地域認識の歴史的な変遷を理解できる。
郷土史研究・地方史研究・地域史研究の違いを説明できる。
地域史研究と現代社会の関わりを説明できる。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：講義計画と評価について / はじめに：歴史学と地域史研究
- 第2回 前近代の地域認識(1)：地誌編纂の歴史
- 第3回 前近代の地域認識(2)：民間の地誌編纂
- 第4回 国史学の成立と展開(1)：日本の近代化と歴史学
- 第5回 国史学の成立と展開(2)：戦前期の歴史学
- 第6回 郷土史の成立と展開(1)：近代の郷土史研究
- 第7回 郷土史の成立と展開(2)：近代の郷土史実践
- 第8回 地方史の成立と展開(1)：郷土史への批判と地方史の実践
- 第9回 地方史の成立と展開(2)：地方史研究の実践
- 第10回 地域史の成立と展開(1)：地方史への批判と地域史の実践
- 第11回 地域史の成立と展開(2)：地域史研究の実践
- 第12回 地域史の成立と展開(3)：地域史研究の実践
- 第13回 地域史研究と「地域歴史遺産」(1)：災害と歴史学
- 第14回 地域史研究と「地域歴史遺産」(2)：市民参加と地域史研究
- 第15回 授業のまとめ

教科書・参考文献

教科書 教科書は指定せず、講義計画に基づいたレジュメを配布する。

参考書 木村礎「郷土史・地方史・地域史研究の歴史と課題」『岩波講座日本通史別巻2』(1994年)、矢田俊文「災害・環境と歴史学」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題』積文堂出版(2015年)など

授業外での学習

講義で示す参考文献を読んで予備知識を得、受講後はそれを読み直して理解を深める。

評価方法

リアクションペーパー(40%)と期末試験(60%)で評価する。

履修上の注意

著しい遅刻は欠席と見なす。

科目名 歴史学
Title History
科目区分 基幹教養

担当教員
教授 西沢 淳男 (ニシザワ アツオ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 1	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

歴史学は、過去の事実を知る学問である。歴史学には、政治史・外交史・思想史・文化史等々多様化する諸分野があるが、とりわけ「地域史」は歴史研究の土台となる重要な一分野である。本講義では、一つの地域を多角的に考察し、民衆史や生活史のなかから、これから取り組んで行かなくてはならない地域の課題を解明していく研究である「地域史」を概論(研究方法や学問の概要)していく。県外者も多いことから、概論の前に地域を先ず日本列島の中の関東地方、関東地方の中の群馬県という視点から歴史や文化の個別性を概観し、群馬県の歴史的成り立ちを理解してもらう。地域の歴史や文化を理解し、その共通性と個別性を考えることは、今日地域を取り巻く少子高齢化・過疎化・市町村合併・地方分権といった諸問題や地域振興・福祉を考える上でも有用であることを学んでもらいたい。

達成目標

現代における地域に内在する諸問題を解決するヒントとして、地域史を学ぶ意義と、地域史研究法の一部を理解できるようになる。

スケジュール

- 第1回 開講ガイダンス・アンケート：ガイダンスと講義計画・評価について
- 第2回 関東の地域性：関東の地域的特質、日本の西と東とは
- 第3回 上州の古代・中世：古代・中世の群馬の歴史と文化、東の中心であった群馬
- 第4回 上州の近世・近代：近世・近代の群馬の歴史と文化、群馬県庁移転問題
- 第5回 歴史学と地域史：地域史とは何か、地域史を学ぶ目的・意義、史実と俗説
- 第6回 近代以前の地域史・地誌編纂：風土記から江戸時代における地域史編纂事業
- 第7回 近世から近代への地域史・地誌編纂：江戸時代から戦前の地域史編纂事業
- 第8回 郷土史：郷土史とは何か
- 第9回 郷土史から地方史へ：郷土史への批判と地方史研究
- 第10回 地方史から地域史へ：地方史への批判と地域史研究
- 第11回 地域歴史学：地域の歴史資料を守り、記憶を継承していくために
- 第12回 歴史資料の保全と活用：大規模災害と歴史学
- 第13回 地域史と公文書館(1)：公文書館法と史料保存
- 第14回 地域史と公文書館(2)：公文書館法と史料保存
- 第15回 地域史と自治体史編纂：自治体史編纂の現状と問題点

教科書・参考文献

教科書 特になし。プリントを適宜配布する。

参考書 講義時に紹介する。

授業外での学習

提示した当該回の参考文献をよく読み予備知識をつけておくとともに、次回につながるように復習し、知識の定着を図ること。

評価方法

期末に論述試験を実施します。論述試験(61%)、リアクションペーパー(3点×13回=39%)。出席は厳密に毎回取ります。始業時より5分経過で遅刻、30分以降は欠席扱いとします。

履修上の注意

出席は厳密に取ります。皆出席が望まれます。受け身ではなく、積極的に授業に参加するようにして下さい。評価対象のリアクションペーパーを毎回求めます。